

忠婦
美法

薄衣草紙

二

959
2



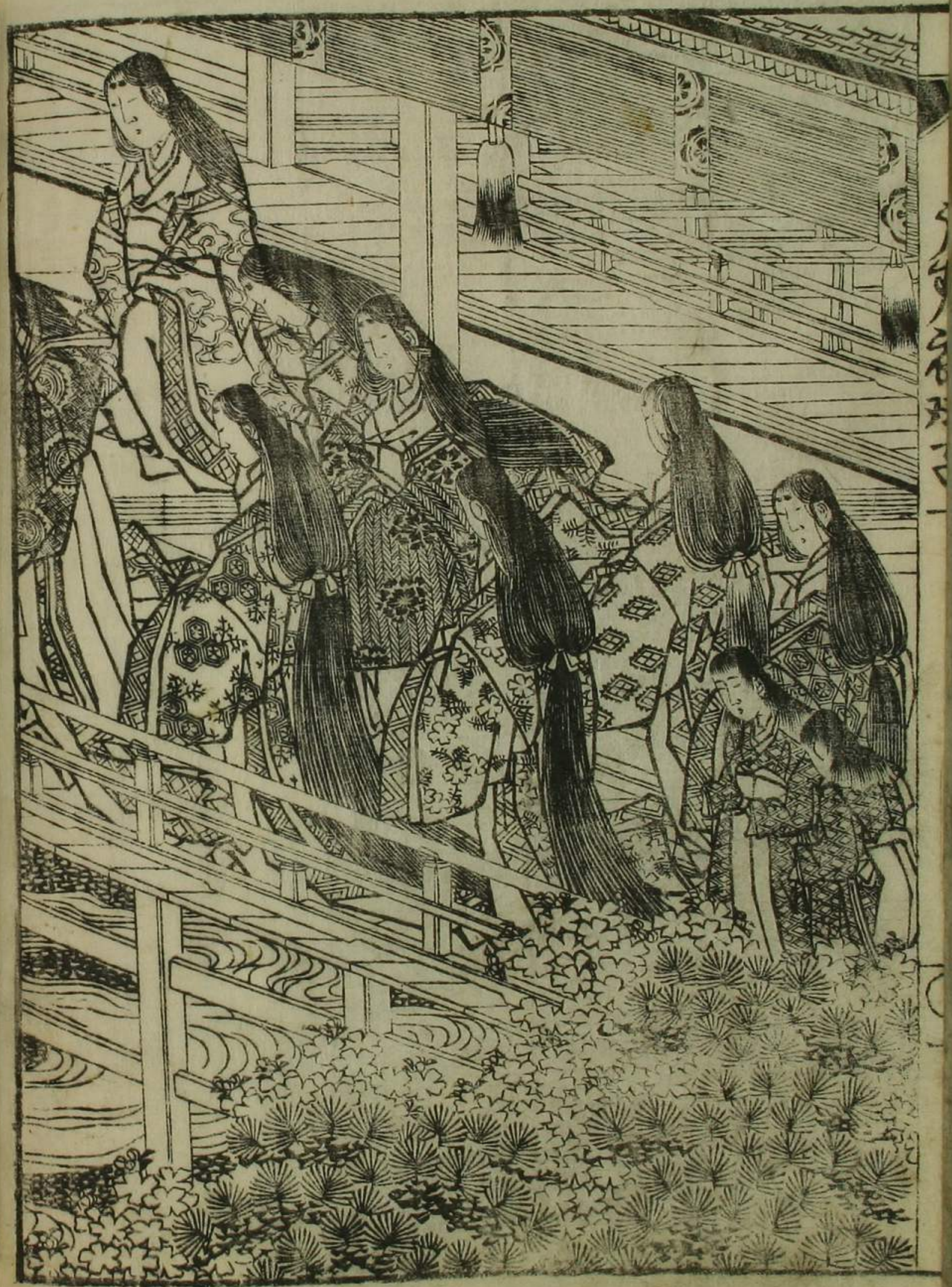
本清



まゝと一のあみぞ挿ハ忙しくまじりよとてさん徒と和見兼あられ
 ばちん箇金別の損下とせのひぬまると夫と君とまのあへておと
 ると君と君とあまらせんとるま。この禮のえふ誓財態せめくととる
 あぞ君君も今ハ固辞ごとくその席も休むつせのひ。これも春の佳
 景のえ捨ごとく。このあお如くあしひが。召連するののとと異ふ。後
 月橋すといとんと。そ死ぬふ不意箇金別と。損下とてゆゑ。つふせん
 ととひのあひ。いふ。うん知あを建と。とと箇金別かそとと宣ひ
 けとバ挿ハ香き。いづく中とたおんごうの。奴隷のりのふおせおさゆひ
 しも。馬今まりよとて進せん。僕侍りの主人の母子も并載よ
 兼ふんが北の方ハ今大悲閣へ来る備のひて。愛ふの娘のもおとせ
 おかすとのあはは。おくら持のひつる。九献のあるまは。おん者

大正

の



いその先祖諸兄公のふ裔ゆへ。橘氏の技流るりか。のまに齡も
六才のまゝ三四と裁のいほど容顔へ美麗るれども。眼中にまはく
その性狼戾あり。依兵水火を争ひ善を憎む悪を甘んじ。魂
言々陸の同士の中垣結しむるると間あるけし。後の話も
その腹ありを忌憎むとすども。爰あまも海士の禁繩ある
どく。下獄ふ怒りとまのびのふも尋りたり。その縁故いふと
るまは政則の妹ふ真萩姫とす。容顔よへるありのり。美
人と稱して孫に云ふ雲井の古きも。その父え隠るりし。帝も
えぬまよ愛咲のひ頓て居し。出く後宮ふまめ名をばそのま
真萩の前と唱せのひ。君寵りとも濃く。昨日もあ
おぼえ愛。うりし。后妃も。今日も。うらまらふ。秋の鳥と。癡れん
真萩の花のまき香ふ。未と奪と。とやの口。されども。后の姿乃
柳揺るるふ。正まら。そのまは。佞奸ける。の舎兄政則。今より。も
や。い。ま。あ。も。怜。惻。ある。う。人。色。の。媚。り。て。敷。ま。よ。論。し。そ。ま。つ。り。し。ふ。
さ。よ。る。ま。天。晴。み。て。舎。兄。政。則。官。位。昇。進。遠。く。ま。つ。り。し。を。沙。汰。し。け。り。
諸卿も。是。が。い。ま。よ。面。を。微笑。し。て。會。澤。の。人。へ。夫。ふ。等。が。て。不。平
こと。の。ま。ま。う。り。る。原。より。政。則。も。橘。氏。の。か。流。る。れ。ば。原。底。諸。実。の
家。を。重。ん。じ。ら。る。ま。よ。疎。縁。ある。の。ま。あ。の。れ。橘。の。枝。葉。と。て。根。本
ふ。ま。ん。正。と。あり。ひ。諸。実。を。倒。し。家。宝。の。橘。を。ひ。ふ。松。き。橘。氏。の。棟。梁
と。ら。え。り。の。ま。よ。奸。悪。胸。中。に。迫。る。正。年。あり。日。夜。思。ま。を。懲。り。し。と
り。ど。も。當。時。諸。実。卿。の。官。位。と。い。ひ。學。才。と。い。ひ。主。上。の。お。ん。受。え。も。厚
かり。く。其。指。を。さ。り。挫。ぐ。術。も。あ。る。ひ。ま。く。光。陰。を。送。り。し。ま。よ。

橘氏

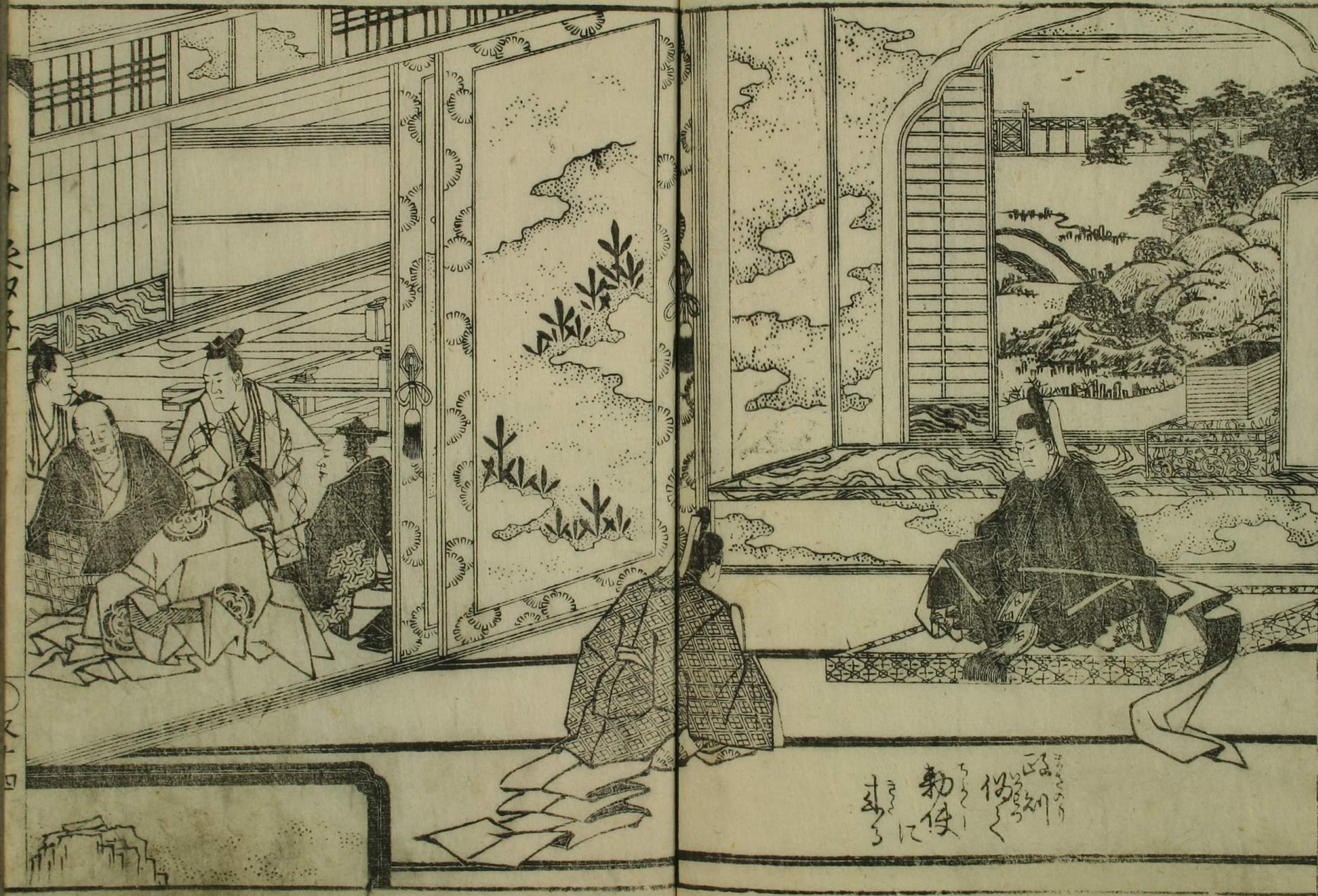
二

不圖也。佞人時運をひるの世常ありて。其萩の前の君息他。まきる
おるま。此時をりて。成終とせられ。いとも。何有真菰の前の
對面せざり。その商を定め。まられ。後宮入。正
ひるべ力あり。再三再四之業をめぐ。漸一計を編。或日
昇殿の刻。内奏ふつ。の演。るの愚臣が妹真菰。このころ亡
母の善哉の為。あとも。自ら法花經と書写。り。おれゆひ。が不意
由賢。勅宣を。後宮ふ。不臨。愚臣へ。おれゆひ。人
り。後て書写。経卷満尾。い。道。も。表。好む。ところある。が。
音信。せ。り。ひ。ひ。既。年。廻。の。正。當。由。遠。く。い。
ゆ。へ。兼。ぐ。期。せ。妹。が。志。願。果。を。せ。り。ま。れ。ど。も。その。好。と。斗。り。の
ゆ。へ。何。我。皆。時。の。對。話。免。一。す。は。さ。ば。天。恩。畏。と。な。り。ぬ。一。葉。天。機。

竊ひ内奏を遂め。つと。と。述。り。ま。す。その。申。事。即。刻。は。奏。同。し
及。び。一。の。教。聽。す。り。て。則。相。看。を。免。許。し。さ。れ。り。見。事。未。け
る。が。内。殿。の。廣。庇。小。お。ひ。く。對。話。を。遂。げ。君。息。の。言。を。謝。り。
ま。り。相。互。の。恙。を。た。と。う。こ。び。時。有。り。政。則。席。を。進。寄。真。菰。の。衣。
向。ひ。声。を。竊。み。り。年。未。お。ん。身。も。多。ひ。の。ま。て。我。と。諸。實。と。の。同。性
る。ま。と。も。諸。人。君。臣。の。ま。ひ。を。う。り。て。夫。何。由。あ。と。ま。れ。ば。彼。家。の。累。代
相。傳。の。宝。あり。我。素。り。その。重。器。希。ひ。罕。と。り。と。も。こ。る。る。と。ま。
ゆ。と。ま。れ。る。毎。ま。ひ。と。唯。一。念。と。ま。の。ま。年。と。り。ま。ぬ。ま。つ。る。み。お。ん。身
今。朝。恩。盛。る。れ。ば。教。慮。を。う。り。が。ひ。主。上。は。彼。橋。の。内。院。と。ま。あ。ま。り。
勅。書。を。り。て。呈。上。と。ま。ま。つ。く。大。内。に。止。め。め。り。り。計。畧。隱。密。り。
我。方。へ。送。り。り。縦。月。を。重。ね。年。を。裁。ふ。至。る。と。も。深。帳。は。お。り。せ。り。り。

といつて返下さるまでハ諸実りんもあらず。そのうち
これ昇進ふおひてハ計作ひあり。計密り。憑きまをせん。對
面とまひひし。よろしく結。ゆつれと有り。れば。真菰の前回登り。
奏例を遂る。そのも難。まゆも結。ねども。主上道。ふ。在。さ。を。
教慮。ま。推量。が。じ。り。その計。疎。る。は。か。く。兄上内勅。の。ハ
使と号して。彼家。ふ。り。少。く。情。由。と。号。く。内。後。の。演。述。宝。器
と。預。り。あ。り。の。り。ふ。ゆ。中。の。格。と。も。背。と。あ。る。大。内。の。首。尾。を
こ。へ。ふ。ふ。計。ひ。ゆ。ん。が。び。宣。ふ。と。お。を。何。ひ。奏。例。を。お。び。思
ハ。消。息。り。て。告。す。の。り。せん。と。立。別。政。則。の。恩。と。誅。と。退。去。あ。り。る。か
して。或。日。真。菰。の。前。より。音。信。あ。り。る。か。この。行。の。一。つ。内。奏。ま。る。び
亦。勅。定。あ。り。先。以。下。と。び。叙。後。あ。り。一。品。角。び。尺。せ。ら。ん。ゆ。あ。る。珠

先帝より下り。の。ひ。宝。器。原。吳。國。の。産。も。中。よ。懸。物。ふ。ん。ん。や
る。ゆ。ら。ん。ま。何。と。も。ゆ。さ。う。と。る。且。ど。也。又。お。を。あ。め。と。の。勅
定。る。れ。ば。詮。と。る。此。上。の。豫。て。謀。あ。り。て。裁。定。は。斗。ふ。べ。き。一。乃
文。政。る。れ。ば。政。則。令。い。ゆ。と。名。表。と。変。化。日。夜。冠。清。ふ。出。支。諸。實
大。納。言。の。居。住。の。人。梅。津。の。里。へ。移。り。し。せ。け。ら。ん。亦。く。も。主。上。の。内
勅。の。お。ん。使。と。て。挂。山。政。則。を。遣。了。諸。實。の。々。在。館。お。り。さ。び。對。面。と
逐。げ。勅。定。の。誅。と。せ。ら。ん。と。言。ひ。れ。ば。諸。實。受。せ。ら。ん。ひ。は。ひ
誤。由。勅。使。と。て。政。則。の。入。来。と。不。審。る。れ。何。れ。勅。定。の。誅。を。あ。ん
と。一。室。不。清。じ。座。定。ま。ら。ず。政。則。諸。實。不。對。し。て。稟。と。れ。ら。ん。この。行
主。上。些。く。ゆ。ら。ら。例。の。り。せ。ら。ん。ゆ。中。樞。由。教。慮。不。潔。せ。ら。ん。ゆ。計。詳
を。晴。さ。せ。ら。ん。と。種。く。ゆ。ら。ら。在。さ。せ。ら。ん。敷。之。不。潔。ま。せ。ら。ん。ゆ



分利谷子

一

勅使
侍
に

不圖貴卿の家室のついでに女を以て出させむ。彼橘開洞を以てつら
るるを敬後在まざる。積背を敬めらんあへ。ふた器のふんと乞ふせ
ぬひ。政則よ作て形り成りぬべし。勅定ある且急に某くおん後
あれりと演述ふれば。諸実謹で勅答あり。なる先りつて勅定乃
既畏むとそまらりぬ然り。帝も知し。臣のふと。愚臣が家室乃
るの先祖徳兄を以て。橘の性を免許の時。彼橘を副て下りぬ
ぬな。累世の帝是を知し。下りて敬後あらんと。或ハ朝賀
或ハ節會のちりら。清紫兩殿の内よあわく。執事を逐る古格を
あつる小此とびむ。不務まつひ。橘のふ小。橘のふ。その例は
とくども。論言貴れとそまらん。謂あり。さあが諸実。まづら。某
内。甘め。何の執事まつの。敬後よはく。とそまらん。は某よはく

姜尚よあづる。備勅答は是を以て。橘をぬ。る。と。貴卿
とくも同性を以て互ひ小疎縁ある。その由來あり。ふとそま
序るれば。打攢ひて。脱活あり。其某が。某を述ゆらん。際
某とそる小。内勅の敬後。強て君の手をぬむ。なる。有す。
あつる小。似されども。其序をりつて。后妃の。其を以て。ふ。と。
内懐めて。敬後あらんと。あつる。去るれども。古例よまらして。紫震
清涼の兩殿の内。敬後を。其の家室を。まづら。橘とる。あ
あつる。元明帝。先祖諸兄。公よ下りぬ。勅を重ん。夫より。と。
代々の帝も古格よ。准の。家を家の規模と。なる。が。ゆ。ある。されども
此度の勅ハ先例よ。異なる。と。其の。古格をりつて。敬後を。其
とて。殊よ直さ。勅使よ。其け。あ。其。殊。其。其

あり。あるるうへの携て系内と逐べ。るとや貴卿の外入るるべ氏族
 るれば先達て竊小内を告げしめんと可るらん小見分て勅使
 小立のよ正氏族のうちぞしそへ。その信誼さすものらんう。いつもあひ
 のみやと豫て政則家室小御掛たることを知りぬゆゑ。りや奸計
 ありのやあらんと其心根を探り一言政則の御中小的高し。諸実
 系内して此始終ふ及ぶ。これのさるるを真菰の牙のうへともあふべし。
 さざればこの謀計全うなれば。いつふゆゑといひ清むを。諸実小むらひ。令の
 通り御臣を使ふまじとへ直の勅定あゆむべ急せぬ人のようゆゑ。
 その巨細の審はまるべし。ゆゆゆのゆゆゆ。ゆゆゆまゆも宝器の奇品るる
 ことと作く。后妃の強て羨望は及ぶゆゆゆ。ゆゆゆのゆゆゆ。ゆゆゆの
 ざる小。誰り内勅といひ出ぬるゆゆゆ。ゆゆゆのゆゆゆ。ゆゆゆのゆゆゆ。

貴卿 陽向まて系内あゆむあひその肩を頼界の輩。ゆゆゆのべし。
 只女ごらの不者前後奇室と洋見せん正と一向ふゆゆゆの切る。
 ゆゆゆのゆゆゆ。任化ひとびまゆゆ。ゆゆゆの縁由をゆゆゆ。ゆゆゆ
 敬慮。ゆゆゆのゆゆゆ。又別人をゆゆゆ。再度ゆゆゆ。ゆゆゆ
 るれば小あひて其器と書翰をゆゆゆ。達ゆゆゆ。ゆゆゆ。早見世
 比較るる珍器ゆゆゆ。ゆゆゆのゆゆゆ。宝器ゆゆゆのゆゆゆ。規模
 とゆゆゆ。ゆゆゆの巧るる。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。
 々の青信とゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。
 ゆゆゆ。ゆゆゆの縁故をゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。
 ゆゆゆの政則もゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。
 のゆゆゆのゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ。



春の夜
月夜
月夜

月夜
月夜

月夜

こそを恨の上の言上おぼる事。この返報いつらひもせんと。
狼戾の多ひまじりる事ども。面色と柔ふげ久くして糸入とさげ
飲びるもあるべ。あつー同性とて疎縁あるは君勢の暇とほえ
づらう。かゝるごども呉越の隔あゆつて。賢と愚を加へるべしと。
廉言とみぞぬれらる。ゆて一書をまて家宝教後のもつと。
控縁あぶさすの文面ありけ。諸実んひて。ごもあつめとて天
にせぬひら。我もども政則の企のるごども。却て疎忽を戒
められ。宇宙憤り。此上の言改せりつて諸実を倒し。是非宝器を
己が有ふるごども。と中焦燥とも。つごその階梯をほごひ。あつ
一箇の僥倖ありて其牙権中納言ふ。何せん。く。潜龍の水を
浴ご。権勢日以倍。割。真菰の前と見あつるごども。内殿へ

出入の制を免許のひら。己は誇りて暴虐の仕業。まらぬごども。
主上のその行状のまら。己もごども。と死政則を玉坐。進く。己もつ。
おん土器のごども。天気麗しく。神代よりて古今のおんりの語り
るごども。序よ。政則情で。羨し。ありらる。あつて三種の神器と。
倭玉の至宝。あつて威徳の炳然。くす。おん。万民安堵。て作ご。
ごども。但。是に。准ごども。あゆ。ごども。大納言。諸実が。家宝と。
玉枝の櫛の世も。奇特る。細工の。あつて。佛のゆめ。去り。
ごども。の。序よ。一。強を。あつて。承。ごども。の。吐て。あつて。家宝の
と。往昔。元明帝の。中。先。祖。諸。見。へ。下。の。あつて。三。國。一。品。の。奇
宝。る。ごども。の。薄。ごども。即。席。よ。ごども。と。免。ごども。天子。ごども。の。没
あつて。ごども。の。敬。ごども。の。あつて。既。ごども。の。三。種。の。神。器。ごども。の。と。死。宝。と

へんども。ひまじりしる不忠義なるを。つゞが家室する中。その
 神変の奇なる三種の神宝とりよとも。日と同一して。結ぶべし。と
 天子ふ三ツの神宝。おせむ。が家も二ツの奇宝とあり。こまじよ
 家系を加ふま。則全三ツの宝あり。殊。ふが家王胤を。出せ。と
 うぐ。これ。代々。上。の官。なる系。傳。ゆ。て。諸。兄。より。及び。三代。が。う。ら。
 大臣。を。継。ぐ。夫。より。後。の。身。病。早。世。の。輩。の。も。る。れば。其。沙。汰。る。れ。由。
 正。つ。つ。る。れ。ども。今。諸。実。天。命。と。ある。の。年。ふ。れ。ども。階。を。由。ら。と
 の。つ。つ。と。内。帳。に。親。族。ある。もの。が。ら。の。も。例。る。は。高。官。に。経。身。の。權。を。恣
 小。さ。る。と。對。する。か。ま。と。述。懐。の。色。影。を。ゆ。ゆ。と。その。形。の。よ。と。審。る。ら。ん。
 知。つ。け。て。似。ひ。ゆ。天。小。對。する。不。教。の。言。葉。も。粗。々。え。不。平。ら。う。れ。
 ひ。も。ら。れ。あ。る。や。う。笑。ひ。ぬ。悪。臣。が。同。性。の。不。善。成。所。る。ふ。似。ゆ。ども。只。君
 恩。の。垂。け。る。く。ま。と。ま。つ。る。披。着。の。寸。衣。然。止。ま。ら。ず。備。を。奏。聞。よ。及
 ゆ。ま。じ。る。が。ら。罪。の。疑。に。ハ。罪。を。か。く。と。う。け。め。つ。り。ゆ。が。竊。又。ハ。知。よ
 善。さ。せ。や。は。ら。び。や。と。赤。印。を。ふ。奏。け。せ。その。側。より。真。珠。の
 前。よ。び。よ。次。で。諸。実。か。る。ふ。つ。た。不。審。の。条。も。由。風。鏡。不。の。ふ。事。り
 及び。ゆ。ひ。る。ま。じ。の。薄。く。か。る。重。る。女。の。身。め。て。奏。し。ま。ら。ん
 せん。と。嗚。呼。の。下。り。ふ。さ。ん。が。何。と。せん。む。の。苦。め。ゆ。ひ。ぬ。ま。く
 ぞ。ま。え。を。の。ら。ひ。や。し。せ。と。右。より。左。より。席。口。毒。蛇。の。奏。聞。し。流。石
 聰明。の。聖。主。由。敬。慮。を。惑。り。せ。の。み。あ。や。逆。鱗。の。ま。け。れ。あ。ら。ん。と。い
 ひ。敬。慮。ある。の。統。志。を。り。て。即時。諸。実。の。系。内。を。ま。づ。く。と。し。止
 かの。ひ。る。ぞ。痛。し。ぬ。憎。ま。ざ。らん。や。政。則。兄。分。る。と。佞。舌。奸。唇。を
 ひ。ら。く。と。寛。仁。の。君。を。惑。く。と。ま。つ。る。諸。実。ゆ。て。ハ。篤。實。乃

賢臣を遠ざくるを。佞と命いん。悪と命いん。實は政則を
一躬の邪慾に迷ひて。其根を去るといふも。乾坤るんぞ
あらんや。

薄衣州紙卷之一終

